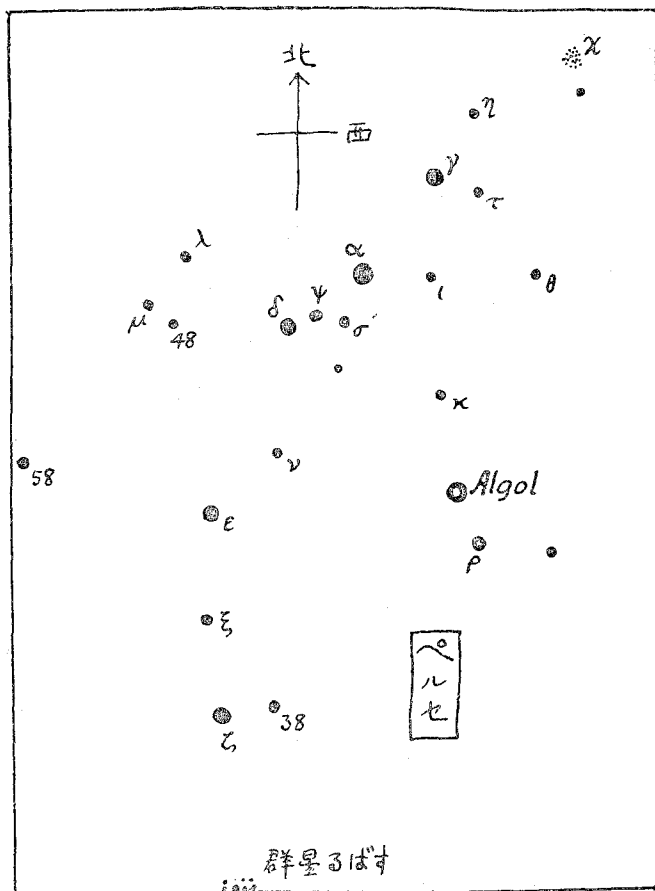


燈臺のやうにアルゴル星が

山 本 一 清

天の一角から吾人に何かの信號をしてゐるやうに見える——此のアルゴル (Algol) が愈々觀測し易い時季になつて來た。アルゴル星を含む此のペルセ座は赤經3時から4時あたりの星座であるから、毎年、年末の十一、十二兩月頃は、夜な々々、夕暮と共に東天から現はれ、眞夜中に天頂を通過し、曉天の白



む頃西へ沈むまはり合はせになつてゐる。従つて、アルゴル星の光度を夜中觀測するには此の頃が最も好いわけである。多少の寒さを忍んで觀るだけの價値は充分だから。

アルゴル星は、古い時代からの有名な此のペルセ座のべ星として、平常は二

等級の輝やきを見せてゐる星である。「アルゴル」といふ名は、元、アラビア語の Ras al Ghul (ラス・アル・グール) から來たもので、即ち「惡魔の首」といふ意味である。或る天文家たちは、此の星が「惡魔」と呼ばれる理由を考へて、多分昔しの人が此の星の變光する不思議な性質を知つて居たのだらうと言つてゐるけれど、それは大きな誤りである。けだし、古代ギリシャの時以來、此のベ星ミ、ピ星ミ、ロ星ミ、オー星ミは、**ペルセ**座から離れて、別に「メヅサの首」(Caput Medusae) といふ小さな星座を成すものと知られてゐた。メヅサミはギリシャ神話に名高い南國の惡魔である。従つて此の小星座がアラビアでは Al Ghul (惡魔) と譯され、其の中の主な星として、ベ星が Ras al Ghul 略して Al Ghul (=Algol) となつたのは當然である。

アルゴル星が變光星であることを見付けたのはモンタナリ (Montanari) で、其れは1670年頃であつた。其の後、マラルヂ (Maraldi) が1694年に之を確かめ、こえて第十八世紀の中頃、かのハレイ彗星を再發見したザクモン國の農夫バリチも此のアルゴルの變光を認めたと言ふ。しかし、1782年に至つて、有名な聾啞天文家グトリク (John Goodricke) が此のアルゴルを綿密に觀測し、始めて、變光週期が2日20時間49分弱であることを確かめ、尙ほ進んで此の變光原因は、輝星ミ暗星ミが相互回轉して、暗星が輝星の光りを一定時間にさへぎるに因るこの説を發表した。此の「蝕の説」は、1880年、ピケリング (E. C. Pickering) の研究觀測により確められ、又、1889年にはフオゲル (H. K. Vogel) が分光器的觀測によつて之を確證した。

アルゴルの變光は誠に規律正しい。二日半の間は殆んど一定の2.3等級の光輝を以つて輝やいてゐるが、残り十時間足らずの間、星は光りを3.5等級に落さす。週期は精密には2日20時間48分55秒であつて、之れは人の作つた如何なる時計よりも正しい。今試みに、今年(1926年)十二月中のアルゴル星の最小光度の時日を擧げる。

順番	日本の中央標準時で	グリニチ時で	ユリウス通日で
(1)	12月 1日午前 6時48分	11月30日午後 9時48分	2424850.409
(2)	4日午前 3時36分	12月 3日午後 6時36分	2424853.275
(3)	7日午前 0時24分	6日午後 3時24分	2424856.142
(4)	9日午後 9時12分	9日午後 0時12分	2424859.048
(5)	12日午後 6時 0分	12日午前 9時 0分	2424861.876
(6)	15日午後 2時48分	15日午前 5時48分	2424864.741
(7)	18日午前11時42分	18日午前 2時42分	2424867.612
(8)	21日午前 8時30分	20日午後11時30分	2424870.479
(9)	24日午前 5時18分	23日午後 8時18分	2424873.346
(10)	27日午前 2時 6分	26日午後 5時 6分	2424876.212
(11)	29日午後10時54分	29日午後 1時54分	2524879.079

之れで見る δ 、(6) δ 、(7) δ 、(8) δ は、最小光度の時刻が、日本では晝間になるから観測が出来ないが、他は皆夜間であるから、観測には好都合である。殊に(2) δ 、(3) δ 、(4) δ 、(10) δ 、(11) δ は最小光度の時間が夜半に近いから、観測によつて見事な光度曲線を得ることも出来る。(1)や、(5)や、(9)は日没や日出の時に近いから最小光度の時刻を観測によつて確かめるには多少不便である。——しかし、あへて研究観測をする野心は無くとも

『平生は二等星 δ として輝やいてゐる此のアルゴル星の、有名な極小光度を、たゞ一目だけでも直接に見て置きたい』

さういふ程度の心ならば、(4)や(5)の時期、即ち十二月九日や、同十二日の夕暮れ時に肉眼でペルセ座を仰いで、此のアルゴル星を見れば好い。常は、同じ星座のア星に匹敵する程の光りであるのに、此等の時刻にだけは、ガ星ほかに光りが落ちてゐるころが誰の目にも容易に知れる。しかも、例へば十二日の夜半過ぎに再び此のアルゴルを見る δ 、もはや、星の光は平常の大きさに歸つてゐるころが知れるであらう。

アルゴル星は、變光星の中でも、珍らしく光の大きい星であるから、此の星の光りの観測は肉眼でするより外に途がない。大小の望遠鏡は全く不必要である。双眼鏡さへも、使ふころは不便である。肉眼で、たゞ、附近のア星や、ガ星な δ と比べて、光りの大きさを見積れば好い。——因みに、こゝにアルゴルの観測に使ふべき比較星を若干記す。圖に引き比べながら観察されんことを望む。

ペルセ座 α (ア星)	1.90等級	ペルセ座 ϵ (エプ星)	2.96等級
同 δ (デ星)	3.10	同 ζ (ゼ星)	2.91
同 γ (ガ星)	3.08	同 ν (ヌ星)	3.93
		同 ξ (クシ星)	4.05

ついでに、アルゴルの南に隣る ρ (ロ星)も亦一種の變光星であるが、之れは變光の性質が全く不規則で、面倒な星である。しかし観測は、アルゴルの場合と全く同様に、附近の星と比べれば好い。但し之れには双眼鏡を使用した方が好い。比較星としては

ペルセ座 12 番星	4.99等級	ペルセ座 24 番星	4.97
同 16 番星	4.27	同 κ (カ星)	4.00
同 17 番星	4.67	同 ι (イ星)	4.12
同 π (ピ星)	4.62	同 $\omicron$ (オミ星)	3.94